

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 日本防火協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16

(日本消防会館内)

TEL 03(3591)7121

FAX 03(3591)7130

http://www.n-bouka.or.jp

(季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社



8月7日(土)は、札幌市消防学校オープンキャンパスがあり、その中での放水体験では、消防隊員が実際に

また、心肺蘇生法では、乳児から大人まで3種類のダミーを準備し、手当ての方法の違いを確認しながら、真剣に取り組んでいました。お楽しみ会では肝試しを行い、泣いてしまうクラブ員も出てしまう程、オバケ役の指導者の迫真の演技を、クラブ員一様に楽しんでいました。

ロープ結索や包帯法では、どの部分から結び始めたらよいのか? 包帯の端末処理の方法、結び目など入念にチェックを行いながら訓練を行いました。

月24日(土)・25日(日)に、ロープ結索や包帯法・心肺蘇生法の集中特訓を実施しました。

北海道

富丘少年消防クラブ

富丘少年消防クラブでは、毎年恒例の一泊研修を指導者(中学生)が中心となり、7



使用する3分の1の圧力で放水し、筒先を持ったクラブ員は、的に当てることの難しさを体験していました。

川沿少年消防クラブ

北海道

8月18日(水)、札幌市南消防署川沿出張所において、支給されたモデル



活動服に袖を通しました。クラブ員は、緊張しながらも全員が目を輝かし「頑張るぞ」と口々に話し、着用後、早速リーダーの指揮号令のもと、「整列! 敬礼!」と元氣よく規律訓練を実施。結索訓練では、活動服も凛々しく、クラブ員同士助け合い、励まし合いながら真剣に訓練に取り組

また、消防学校内の科学研究所では実際に爆発実験を見せてもらい、可燃物の燃焼の速さや気体化した液体の爆発の恐ろしさ等、貴重な体験をさせてもらいました。

また、消防学校内の科学研究所では実際に爆発実験を見せてもらい、可燃物の燃焼の速さや気体化した液体の爆発の恐ろしさ等、貴重な体験をさせてもらいました。

また、消防学校内の科学研究所では実際に爆発実験を見せてもらい、可燃物の燃焼の速さや気体化した液体の爆発の恐ろしさ等、貴重な体験をさせてもらいました。

北海道

小平少年消防クラブ

小平少年消防クラブでは、消防の仕事に対する理解を深め、防火知識の向上を図ること

また、梯子車の体験搭乗では緊張した面持ちで見学していたクラブ員でしたが、地上約20mの高さを目の当たりにし緊張が興奮に変わったのか、笑顔を見せる場面もありました。更に救助体験学習では、空気呼

避難、避難袋での降下避難、ディスプレイに表示される緊急事態のアニメーションを見ながらの通報訓練などを体験し、最後に不注意から発生する油による火災実験を見学しました。油を加

また、梯子車の体験搭乗では緊張した面持ちで見学していたクラブ員でしたが、地上約20mの高さを目の当たりにし緊張が興奮に変わったのか、笑顔を見せる場面もありました。更に救助体験学習では、空気呼

また、8月21日(土)には、千歳市防災学習センター「そなえる」に体験学習に行きました。同センターは、いろいろな災害の疑似体験をしながら防災に関する知識、行動を学ぶ施設で、体験学習(研修)では、実際に起きた大地震の震度を体験し、先の見えない煙道を



方法を学んだ後、地上に張られたロープを一人ずつ渡し、見守るクラブ員からは「がんばれ」の声が上がり、その声援に後押しされるかのように歯を食いしばり必死にロープを渡るクラブ員の姿が印象的でした。

今回の活動を通じて防火防災及び人命救助に対する知識を深く理解し地域の防災リーダーとして活躍することを期待します。

少年消防クラブフォーラム 2011

Boys and Girls Fire Club FORUM 2011

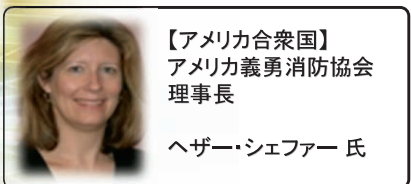
開催日 2月11日(金・祝) / 12日(土)

時間 両日とも【開場】13:00 / 【開演】13:30

会場 都市センターホテル コスモスホール(3階)
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1

内容 11日 アメリカ、ドイツ、日本の青少年消防組織の基調講演
12日 アメリカ、ドイツ、日本の少年消防クラブ関係者によるシンポジウム

【来日予定者】



【アメリカ合衆国】
アメリカ義勇消防協会
理事長

ヘザー・シェファー氏



【ドイツ共和国】
ドイツ消防協会
青少年消防担当

ダニエル・ブローゼ氏

参加申込: (財)日本消防協会のホームページより申込書をダウンロードし、E-mailで送信またはFAXでお申し込み下さい。

E-mail t-nakashima@nissho.or.jp FAX03-3503-1480

問い合わせ: (財)日本消防協会国際部 TEL 03-3503-3056

www.nissho.or.jp

小屋瀬少年消防クラブ

岩手県

小屋瀬

少年消防

クラブ

は、今年
の4月に
晴れてモ
デル少年
消防クラブとして決定を受
けました。



笑みを浮かべる子どももい
たりと、安心させられる一
面もありました。

私の他にも私同様府中消防
署に災害時支援ボランティア
として登録している普及
員の方たちが4名と救急隊
の方が2名応援して下さい
ました。



をを行う予定になっているの
で、代表団員の10名ほどは
お弁当持参で、午後も訓練
に励みました。

防署の中庭での訓練は大変
そうでした。
それでも消防署員の方々
に教えて頂きながら、皆張
り切っていました。

送っていました。
続いて事前に準備してい
たプレゼントの鉢植えの花
を入所者の代表の方に渡す
と「ありがとう」と言って
大変喜んで受け取ってくれ
ました。

府中消防少年団

東京都

8時半集合にも
かかわらず、まだ
残暑厳しい9月5
日の日曜日、府中
消防署新庁舎4階
の講習室に団員27名・準指
導員(高校生)6名・父兄
4名・担当の署員1名・私
を含む指導者2名の総勢40

名が集合し、活動が始まり
ました。
規律訓練の後、私、副団
長が朝の挨拶をし、5年生
以上の28名は板張りの体育
訓練室へと移動しました。

この日は朝の挨拶をし、5年生
以上の28名は板張りの体育
訓練室へと移動しました。

この講習で習った救命処
置は大切な家族や友だちな
ど周りの人を助けることが
出来るということ、それに
は自分が元気でいること、
つまり命の大切さというこ
とを理解してもらえよう
心がけています。

次に、みんなで歌える文
部省唱歌の「赤とんぼ」
「もみじ」を入所者のお年
寄りたちと一緒に合唱しま
したが、入所者の方は、歌
詞カードも見えないで大き
い声で楽しそうに歌ってい
ました。

秋川消防少年団
では、7月24日(土)、
25日(日)に野外活動
を行いました。

には、キャンプ場近くの川
で水難救助訓練を実施しま
した。溺水者に救助ロープ
を投げて救出する方法や、
木の棒を溺水者に差し出し
て、二人がかりで救出する
方法を訓練し、自分が溺れ
ない救助法を学びました。

北多摩西部消防少年団

東京都

北多摩西部消防
少年団では、7月
18日(日)、19日(月)の
1泊2日で埼玉県
飯能市の名栗川に
おいて、夏季野外活動訓練
を実施しました。

今回の、自然の中で起こ
り得る事故の対応と実際に
炎を消火してみようと計画
されました。

山の中で事故や火災が発
生すると救急車、消防車の
到着に時間がかかることを
知った団員たちは、普段消
防署で実施している訓練以
上、真剣な眼差しで取り組
んでいました。



これは、全国的に重大な
自転車事故が多発している
こと、また、活動日には自
転車に乗って消防署に集合
する団員が多いことから
「自転車安全利用五則」を
学びました。

中心に自転車の事故事例、
ルールとマナーについて実
施しました。元交通安全協
会支部長の山口団長からは
「自転車のルール・マナー
違反は外国人より日本人、
子どもより大人の方が悪
い。まねしないでほしい」
と話し、最後に、最近多く
見られる「傘差しや携帯電
話を使いながらの片手運転
は、バランスを崩して転倒
するので、絶対にしな
い！」と誓い、講習会を終
えました。

秋川消防少年団
では、7月24日(土)、
25日(日)に野外活動
を行いました。

には、キャンプ場近くの川
で水難救助訓練を実施しま
した。溺水者に救助ロープ
を投げて救出する方法や、
木の棒を溺水者に差し出し
て、二人がかりで救出する
方法を訓練し、自分が溺れ
ない救助法を学びました。



大雨や台風
が多くなる
この時期に
良い活動が
できました。

東京都

中野消防少年団

9月12日(日)、中野消防少年団(牛山団長)では、防災マップづくりを行いました。21名



の団員は2班に分かれ、各班に団長ほか数名の指導者が付き、中野区本町4丁目区域を回りました。この区域は、主要道路以外の道路は狭路で消防車両の通行が困難な箇所が多く、また木造、防火造の建物が密集している地域です。団員たちは災害が起こったとき、いち早く対応することを考え、まちを探索しました。防災倉庫の防災資器材等を町会の防災部長さんに見せてもらい、20種類以上も

あるのに驚いていました。また、初めて井戸を見た団員もいて、実際に水を汲み上げたり、水が緊急時に公共用に使用されることを知り、熱心にメモをとっていました。マップ作成では、自分たちで撮った写真やシールな

東川崎防災ジュニアチーム

兵庫県

神戸市中央区東川崎地区では、地域にいる可能性が高い中学生を防災ジュニアチームとして任命し、災害時には地

域の人たち(防災福祉コミュニティ、消防団)とともに自主防災福祉活動を実施します。今年で15年目となります東川崎防災ジュニアチーム17名(隊員数19名)が、防災力を高めるための対応訓練を行いましたので、今



今年で15年目となります東川崎防災ジュニアチーム17名(隊員数19名)が、防災力を高めるための対応訓練を行いましたので、今

地域福祉センターに集合したチーム員は、登山道を2時間歩き、訓練場所である市ヶ原に到着。そこで、炊出し訓練を行いました。

その後、ダイヤログインザークというコミュニケーション能力向上訓練を行いました。これは目隠しをして目的地までを集団で異動するゲームですが、会話により意思の疎通をしないと、各人の行動がバラバラになってしまふというもので、次第にコミュニケーションが向上し、団結していく様子を見ることができました。

夜間は、地域福祉センターに戻り、アルファ化米・缶詰での夕食を摂りながら、チーム員は震災時の食料配布などの体験談に耳



島根県

雲南少年消防27クラブ

雲南防火委員会(会長佐藤均雲)南消防本部消防長)では、少年期における防火・防災教育の一環として、火の大切さや火の怖さを知り、

生時に行動できる力、助け合うことのできる心を養い、お互いの絆を芽生えさせる」という目的を達成することができたと思います。今後も心肺蘇生法の習得・ポンプ操作訓練などを行い、中学校で訓練成果の披露会を実施するなど、災害時に地域を守るリーダーとなるよう、地域一帯となつて育成に取組みたいと考えております。

雲南防火委員会(会長佐藤均雲)南消防本部消防長)では、少年期における防火・防災教育の一環として、火の大切さや火の怖さを知り、



クラブ員代表誓いの言葉



開会式



屋内消火栓放水体験



庁舎見学(車両見学)

参加したクラブ員は、他の小学校のクラブ員や消防職員と楽しく過ごし、消防への関心を深めると共に、「あいさつの大切さ」、「命の大切さ」、「友だちのすばらしさ」、「チームワークの大切さ」、「助け合うこと」などを学び、16時過ぎには修了証と参加記念品を手消防本部を後にしました。

研修会は、雲南消防本部で7月29日(木)に開催し、27クラブから127名のクラブ員が参加しました。この研修で昼食用のカレーライス作り、消火栓を使用する放水体験や水消火器を使用した消火訓練、地震車による地震体験、煙体験、庁舎・車両見学などを行いました。また、出雲空港消防隊、島根県防災航空隊の見学に行き、活動用資器材の説明を受け、大型消防車両からの放水や防災ヘリコプター「はくちゅう」、航空隊員の訓練などを見学し、貴重な体験をしました。



島根県防災航空隊見学



中、厚手長袖の真新しい、活動作業服に身を包み汗を

発活動を行いました。
当日は折からの猛暑の中、厚手長袖の真新しい、活動作業服に身を包み汗を

広島県

6区少年少女消防クラブ

6区少年少女消防クラブは、平成5年2月に結成以来、着実に地域防災の一翼を担って地道な活動を展開しています。

この程、日本消防協会から活動の成果を評価していただき、30着の活動服をご支給いただき、児童・生徒の活動意欲が大いに高まり、今後の活動に益々拍車がかかり、期待が大きく膨らんでいます。

おおのじょう少年消防クラブ

福岡県

おおのじょう少年消防クラブは新しくクラブ員募集に応募した小学生9名で結成され、



拭き拭きの過酷な条件の初仕事となりました。

しかし、それでも子どもたちは支給貸与された活動作業服を着てニコニコ顔で一生懸命作業してくれました。
作業が終了した7時ごろには、さすがに元気な子どもたちも少々バテ気味であったように見受けられました。
住民の皆さんの子どもたちに対する温かい拍手と笑顔は、防災の助け合いの地域づくりに大きな力になっていくであろうと感じる夏の出来事でした。



翌日の6月13日(日)には大野城市総合防災訓練が実施されました。大野城市は過去幾度となく御笠川による水害を受け、大規模開発による宅地造成などで土砂災害警戒地域が増えており、昨年7月の中国・九州北部豪雨でも被害をうけたことから地域の防災力の向上が

求められています。前日に結成されたおおのじょう少年消防クラブも早速警察、消防、自衛隊など関係機関、各区の自主防災組織の皆さんとともに防災訓練に参加しました。消火器による初期消火訓練に参加し、消防署員による救命講習を受け、消防団などによる水防訓練を見学して防災知識の習得に努めました。
7月11日(日)には、消防団の新入団員1日入署にあわせてクラブ員の消防署体験入署を行いました。座学の

あと、消防ハシゴ車搭乗、消火器訓練、ロープワーク、救急ロープブリッジを楽しむながら体験しました。
8月28日(土)・29日(日)の夏休み最後の週末を利用して大分県由布市湯布院町にて宿泊による避難所生活体験を実施しました。保護者同伴はなく指導員・クラブ員だけの参加でしたが、クラブ員は不安げな様子もなく、ロープワーク、テント設営、食事作りなどを楽しみながら行い、夏休みの最後を満喫しているようでした。

9月5日(日)には大野城市消防団が福岡県消防操法大会にポンプ車の部、小型ポンプの部に出場しました。応援の甲斐なく両チームとも優勝はできませんでしたが、将来の操法選手がクラブ員から出てくることを期待しています。

結成間もないクラブですが、これまでの行事をとおしてクラブ員の連帯感もだんだんと強くなっているようです。今後も11月の秋季火災予防運動、12月の歳末特別警戒、1月の消防出初式と行事が控えています。が、クラブ員を増やしながらおおのじょう少年クラブを盛り上げていきたいと考えています。



明日へつづく夢・宝くじ♪

宝くじの収益金は、子どもたちの遊び場をはじめとする街づくりなど、みなさまの暮らしに役立てられています。



(この遊具「アソウエの森」(秋田市大森山動物園内)は、宝くじの普及宣伝事業として設置されたものです。)

当せんはしっかり調べて、しっかり換金。



財団法人 日本宝くじ協会

<http://www.jla-takarakuji.or.jp>

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

